

「さんふらわあ号で航く由布院温泉への船旅」旅記録

Writer : 木村 麗子 様

3月17日(月)「さんふらわあ号」は定刻通り6時55分別府港に接岸。別府は快晴。斜面に広がる坂の町のあちこちに湯けむりが上がり、いやがうえにも旅情緒をかきたてられる。お迎えのシャトルバスで「山水館」に向かう。途中のなだらかな草原は、春の山焼きが終わったところで、所どころの黒い模様が面白い。狭霧台で雄大な九重連山に囲まれた由布院の街並みが眼下に広がり、思わず歓声をあげる。



午前8時ホテル到着。直ぐに朝食会場に案内される。天気予報で明日(18日)は雨とのことだったので、天気の良い今日に、念願の由布岳に登ると決め、朝食後装備を整え9時45分由布院駅前バスターミナルから別府行き亀の井バスに乗り、由布岳登山口で下車する。10時5分登山開始。由布岳は単独峰で、姿が美しいことから豊後富士ともよばれているそう。以前由布院を訪れた時、次に来るときは絶対登りたいと心に決めていた。雲一つない快晴で、最高気温20度という予報。暑くて予想以上に喉の渇きに悩まされる。途中、林の中で鹿の歓迎をうける。頂上付近は急峻なガレ場が続き、京都の大文字で少々訓練らしきことをしてきただけの身には手ごわい山であった。その上、麓では無風状態であったのに、稜線に出た途端、強風で吹き飛ばされそうになるので、四つん這いになって、なりふり構わず登る。標準は2時間30分程の登りに、77歳と69歳の私達は、休み休み登るので3時間余を要して山頂到着13時20分。由布院岳東峰は1584mだったはずだが、どういうわけか4m低い1580mと表示した新しいポールがたっていた。春霞で少し霞んではいたが、360°の眺望を楽しむ。15時55分登山口に無事帰着。

この日は登山だけで終わり、ホテルに帰る。すぐお風呂に入って汗を流し、その後ラウンジ「山茶花」で飲んだ生(なま)地ビールのおいしかったこと！大仕事を成し遂げた気分。ホテルの部屋やベッドは広く、全面ガラス張りの窓の真ん中にドーンと由布岳が鎮座して見え、部屋からの素晴らしい眺めを楽しむ。7時からの夕食は個室での懐石料理で感激。バイキングと違いゆっくりと料理を堪能しました。





3月18日(火)朝風呂にはいる。温泉はアルカリ性単純泉で透明だが、上がった後肌がスベスベする。朝食後小雨が降りだす。観光辻馬車に乗りたいので、観光案内所に電話を入ると、「今日は雨が降っているので休業」とのこと。残念だが仕方なく朝一番10時発の「スカーボロ」という英国式クラシックカーに乗る。カーの運転手さんによると「馬は年中裸なので風邪をひくと困る」それで雨の日は休業になるのだそう。稼ぎより動物を大切にしている優しさに心とむ。田園の中をフローラルハウス青の洞門を開鑿した僧＝禅海が得度した興禅寺、

大きな鯉の泳ぐ池に囲まれて建つ宇奈岐日女神社を廻って、金鱗湖近くで車から降りてもらおう。雨は上がっている。湖畔には柳が芽吹き、黒っぽく澄んだ水を湛えた金鱗湖に佇む。朝霧のたつ湖を見なかったが季節が遅かったよう。

その後、広大な木立の中にゆったりと建物が点在する亀の井別荘の茶房“天井桟敷”でコーヒータイム。

太い梁が何本もむき出しになった民芸風な二階屋で、グレゴリオ聖歌を聴きながら、オリジナルスイーツ『モン・ユフ』と深煎りコーヒーの絶妙なハーモニーを楽しみ、ゆったりとした時間を過ごす。

充電後は金鱗湖畔のシャガール美術館へ。好きな画家の一人なので、サーカスの絵で目の保養をさせてもらおう。絵葉書を4枚購入して、次は由布院民芸村に入館する。火曜日は職人さん達が休みだそうで、紙漉きやガラス細工の職人芸は見られなかったが、“油単”(嫁入り道具などに掛ける紋入りの大風呂敷)のコレクションは素晴らしく、しばし見とれる。

その後、湯の坪街道に入り店巡りをする。春休み中で若い人達が多く、買い物やグルメを楽しむ人達で賑わっている。



午後1時も過ぎて小腹が空いたので、“金賞コロッケ”なるものを食べてみる。外側はカリッとしていて、中はクリーミーでなかなか美味。金賞受賞もうなずける。

自分用記念品としてガラス細工のネックレスを買い求め、「豆吉本舗」で夫好みの豆菓子を購入。昼食は「旬菜鄙屋」の豊後牛か「草庵秋桜」の懐石を予定していたのだが、昨夜ホテルで牛肉の陶板焼と懐石料理を堪能し、今朝もバイキングで種々のお菜をたっぷり頂いたので、手打ち蕎麦などが食べたくなり、駅近くの「こうき」という店に入る。

その後、駅前の足湯で大根足が太い人參足になる程の熱い湯で疲れを取る。帰るとなると急に主婦感覚が甦り「グルメシティ由布院」に寄って江藤農園の原木椎茸、ふきのとう、プチベール等を求め、最後にホテルの売店で近所や友達へ



のお土産を購入する。

午後5時に来たとき同様ホテルの車で別府観光港へ送ってもらう。年齢的、体力的に自分が立てた計画と実際とは少々違ってしまった部分があったが、結婚45年を記念する印象深い旅になりました。本当にありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

以上